

介護体験を



聞く会



ホームページ
http://www.yanagida-kaigo.co.jp/

おだやかな性格の男性で短期記憶障害のある方の事例です。車の廃車を忘れて警察に盗難と訴えたり、貯金をATMから引き出したことを忘れて再び同じ事をして引き出せないと銀行に問いただすなどの問題があった。しかし娘さんが認知症について研究されており、食事を食べていないというところ、「食べたでしょ」といわず軽食を出して上手に介護されている事例です。

第157回介護体験を聞く会

平成27年2月31日(土)に開催

議題

- ① Sさんの事例検討
- ② デイケア・デイサービス家族相談
- ③ グループホーム運営推進会議

出席者(職員)・・・院長、柳田CM、柏倉、飯田、露木、古谷、厚川、長谷川、漆原
出席者(家族)・・・石田さん、小宮さん、杉浦さん、野々目さん、藤田さん、藤平

会報第156号

平成27年2月28日発行

発行所・・・(有)明寿会

住所・・・川崎区中島1-13-3

電話044-233-0061

*定例会は最終土曜日です。

(今年12月は19日)

平成16年 不整脈
平成22年 大腸ポリープ
平成23年 前立腺肥大
平成26年 前頭側頭型認知症

【内服薬】

マグミット錠250mg：胃酸を抑える薬。便通を良くする薬。

リマプロストアルファデスクリン錠5μg：血の流れを良くし血液が固まるのを抑える薬。

エビプロスタット配合錠DB：頻尿を改善する薬。

クエチアピン錠25mg：気分を落ち着かせる薬。

(夜なかなか眠れない時に内服)

抑肝散加陳皮半夏：神経症、ノイローゼ、不眠症、高血圧による神経症などに用いる。

【生い立ち】

昭和7年10月27日、東京足立区に生まれる。父は、市電の軌道を作る

研修生と一緒に昼食



会社勤めしていたが急性肺炎で定年前に他界されました。父は、他界されたが15軒ほど家を貸していたのでしばらくは生活に困らなかったが空襲ですべて焼けてしまったからは借地だったため、明日食べる為のお金も無くなってしまう。母の実家のある埼玉に本人、母、妹の3人で疎開しました。(姉2人は疎開せず、お米の配給所務めと学徒動員として残りました) 中学校を卒業後、ライターを作る会社で働き、その後東京に戻りお菓子会社の営業や配達、バックや財布の問屋にも勤めまし

た。義兄が川崎にいたので川崎に移り、富士電機の特約店で勤務し定年後はプールの監視員を勤めました。30才で結婚し2人の子供を育てました。手先は器用で昔はよく日曜大工をしていました。

【経緯】

昨年頃より金庫にある通帳を見てはしまいの毎日で金庫の鍵、通帳がないと探し物をよくするようになってきました。近所のATMでお金をおろし、家に置いた事を忘れてまたATMに行きお金が出てこない銀行に連絡し警備会社を呼んでカメラを確認するという騒ぎになることもありました。そういう事が起こらないようにキャッシュカードを渡さずに通帳のみを持たせたが納得がいかず、よく「カードを返してくれ」と言ってきました。(現在も続いています、1時間で5、6回聞いてくる日もあります) 又、車の運転をやめてもらう為に車を廃車したが理解できる日とできない日がありました。「お父



小学生2年生と交流会

さんも同意書にハンを押
し鍵を渡して車を見送っ
たんだよ」と言っても覚
えがなく、同意書を書か
されたただだと感情的に
なってしまうました。車
の所在を知るために息子
孫に昼夜を問わず1日に
7・8回電話をかけた
盗まれた意識が強まり近
くの駐車場に停めてない
か何度も確かめに行くこ
ともありました。4月に
は警察に盗難届を出して
しまいました。未だに運
転が出来るという時があ
り感情が高ぶっている時
は理解しようとしません。
孫の名義で10万円を入
金し譲った事にして気持
ちが落ち着き、息子、孫

にもほとんど電話しなくな
りました。が夜になると
「俺の車がない」と言い
出し探そうとする事はあ
ります。言い出すと何日
か続いてしまいます。

一時は自分の認知症のス
ピッドと心のバランスが
取れなくなり頭を抱えて
いる姿がよく見られました
。少しでも落ち着いた
生活が出来るように家族
はパソコンでの将棋をす
るよう促したり、小さめ
のバズルやルービックキュー
ブをやつてもらうよう買っ
てみましたが一緒につい
ていないと出来ませんで
した。

子供たちの合奏



のでデイに通いリハビリ
をして何か違うことに目
を向けさせたいとの思い
でデイケアの利用を考え
ました。

【デイケアでの様子】

利用前に娘さんとデイ
ケアを見学に来られた時
は、あまり乗り気ではな
く早く帰りたいという気
持ちは表れていましたが
利用開始日より休まずに
通われています。

初めは慣れない場所です
不安があり個別リハビリ
ではお金がないから出来
ないと言われたり家族に
話してほしいと訴えられ
る事がありました。が利用
開始から2・3ヶ月後
には少し馴染まれたのか
人より「明日、行きたい
けど迎えに来てくれます
か？」と前日に電話が入
るようになりました。

来室されると自分のお茶
のコップや他の人のコッ
プを片付けてくれたり、
帰りの会が終わると全員
分の杖を配ってくれます。
創作活動には率先して参
加され、器用な方なので
作品の仕上がりはとても
綺麗です。しめ縄づくり
では最後の掃除まで手伝っ

てくれました。
個別リハビリと入浴には
消極的ですが行えていま
す。

集団体操やイージーウォ
ークは自ら行っています。

帰宅願望が表れるとまず、
ポケットの中に手を入れ
て探し物をします。その
時点でもうすぐ車で送り
ますから心配しなくても
大丈夫です。と声をかけ
て落ち着かれます。それ
でも心配な時は靴を履き
替えたりケアバックを取
りにきます。一度、家に
帰ろうと外へ出てしまつ
た事もありましたがすぐ
に気づいたので説得して
室内に戻っていただきま
した。

現在でも帰ろうと出口
へ向かわれる事がありま
すが外へ出てしまう前に
声をかけ対応をしていま
す。

口数は少なく自分から話
しかける方ではありません
。娘が他の人から話しかけ
られると誰とでも穏やか
に対応してくれそうです。

【自宅での対応】現在も
認知症は確実に進んでい
ます。デイケアに通って
いる事を覚えていないた

め毎回の朝、説明をして
います。デイケアから戻
てすぐの質問にも答えら
れなくなっています。

夜に多いのですが車の所
在や銀行カードの所在を
気にして、たまに夜中に
金庫を開けて探している
時もあります。デイケア
が休みの時は一日何度も
通帳を見返しています。
病院の待ち時間に何か気
になりだすと人が話して
いても席を立とうとしま
す。

たまに「お昼をまだ食べ
ていない。」と言う事も
あります。が、そういう時
は「二度目だよ」とは言
わずに「じゃあ、軽く食
べたら」とと軽食を出す
とそれで満足します。や
はり、お互いが嫌な気持
ちになるのではなく相手
に自分から近づいて考え
ていくのが良いと感じて
います。デイケアがお休
みの日は日課として家の
周りや家の中で30分ほ
ど歩行訓練をしています。
毎日、少しづつでもやり
続ける事が大切だと思い
心がけて対応しています。
【家族からの希望】
リハビリについては夜、

疲れてぐっすり眠れるように、可能であればもう少しハードなりハビリをしていただけたらと思います。

デイケアに行かない日は簡単な課題を頂けると助かります。計算ドリルなど買ってみました。が自発的には無理なので、柳田さんからの宿題だからやってみようと言うとできそうな気がします。

検討会より

Sさん：一番困っているのは通帳の事。しょっちゅう電話をかけて確認している。何度も金庫を開けて確認する。電話も普通のできるの、病院の予約も自分で取り消してしまふ。初めてのころはまったく分からなく、パソコンなどで調べた。精神的に辛い時期もあった。デイケアに通うようになって楽になった。風呂に入れるのも大変だった。

もしないと倒れてしまふ。

②デイケア・デイサービス家族相談

野々目さん：姉には近所に言わないでくれと言われるが、近所に言わないと徘徊したとき困る。

石田さん：徘徊する人には何かこだわりがある。親父は大森の実家に帰ると言っていた。

小宮さん：昔はよくタバコを吸っていた。火事が怖かった。

柳澤さん：実家に帰ろうと橋を渡って行ってしまうた。

院長：何かあった時など日頃から周り近所と交流を持つていることが重要だ。

③グループホーム運営推進会議

昨年12月と今年1月で3名の方が入院されました。お一人の方は肺炎と診断され、嚥下が難しいとの事で胃ろうとなり昨日(1月30日)退院されました。

また、1月15日に外部評価で2名の方が来所され、災害時に備えて



最低3日分の備蓄品を用意しておくとい、避難訓練では夜間を想定して暗くなる頃に行ってみてはどうか、などアドバイスを頂きました。

グループホーム漆原

『認知症Cさんへのその後の対応と経過』

来所の拒否が続きなかなか意志の疎通が難しくなかつたCさんへの対応がいくらか光明を見る事が出来ました。まずそれには外出前の環境を本人の側から考えて見ようと思ひました。何故拒否があるのか、その裏にある、目には見えない圧力を感じているのではないかと思ひたのです。拒否があると、なだめずかして誘い、場合によっては手を取り、行こうと合図する事も多々ありました。がダメでした。それで一切「行こう！」という言葉を口にするのを止めました。

人にうながし、さとし、本人が通所リハに行く気持ちを持を静かに待つ事にしました。本人の“もう少しまって”の言葉には時間の赦す限り待つ事にしました。すると以外と自分で車イスに移乗しようとして動き始めるのです。拒否の反応は不安の表れと解釈しました。

安心させ、安静にさせる事を優先しました。又、私の名前、声、顔を覚えて頂き、馴染みの関係を築くことに専念しました。寒さに敏感なCさんです。で、温度に注意し、急に寒さに触れないようにも考えました。風呂好きの方なので、「柳田温泉」の話をするると急に笑顔になりました。しかしそれだけではなかなか話題から笑顔が生まれなくなりました。ご家族を始め周りの関係する人たちの協力が必要と判断し、行こう！行こう！と言わないう、待って！と言われたら何もしないで待つ。服を着て！、靴を履いて！と急がせない、強い口調は家族も含めて止める、翌日の外出前に睡眠を含



子供の活躍に拍手

め、環境を整える、これらの事を話し合い、決めました。

気候も良くなり、その後週3回の利用も一度も欠かす事のないようになりました。送迎車中でも問題が生じている時はむやみに話しかけず、話しかける場合も間をおいて静かに話し、安心をして頂くことを中心にしています。来所後はCさんがやってほしいと思つている事を先廻りしておき、又嬉しかったと思われる事をメモして行う事、認知症の方は、喜怒哀楽がすぐに顔の表情に出やすいので見極める事、無理強いせず、自主判断に任

せ、記憶を呼び戻させ、平常心を取り戻させる事、仲間意識の中に自然と溶け込ませ、集団体操の和のなかに引き込むこと。ひとりぼっちに出来るだけさせず、孤独と不安の世界を少しでも軽減させる等とか注意して来ました。

現在送迎終了時（自宅到着時）は笑顔の状態で次の約束をし、握手で挨拶し、手を重ねて別れると、いつも“お願いします”という言葉が必ず戻って来ます。手足の突然の振戦があり、病気による症状かどうか検査をしても判明しない状態ですが、今後も更に取り組み、一掃の改善、馴染み、友達仲間、寮父的な立場からも観察したいと思います。ダイケア室 瀧口

《中学生の職場体験》

富士見中学校2年生の職場体験が平成27年2月10（火）朝8時50分頃来所され、すぐ3Fに上ってこれられ自ら簡単な自己紹介をされ、2Fの事務所にてオリエンテ-

ションを行い改めて利用者さんの所へ来られ、初めは硬い表情でしたが徐々に和らいで、和やかな雰囲気の中利用者さんと2F、3Fに分かれ掃除をして頂きました。

初めに中学生から自己紹介、学校名、趣味などを話され、利用者さんも順番に名前と出生県を言い、利用者さんの一人が私の孫みたいだねと話されるとみんなで大笑い和やかな中、レクリエーションで中学生の皆さんで校歌を歌って頂き、お返しに利用者さんみんなで一寸法師の歌を披露して、続いて一寸法師の紙芝居を中学生の方に読んで頂き利用者さんも真剣な眼差しで見聞きしておりました。

終わってから感想を聞いたところ、入居者のお年寄りから“お姉さん上手だね”と、また、“物語が良く分かったよ”という声も聞かれました。後に利用者さんの席の間に入り雑談で利用者さんから学生さんにくっつか質問をされて、戸惑いながらも答えておりました。

カルタ遊びは学生さんの上の句を読んで頂くと利用者さんは下の句を即座に答えられる様子を見てビックリされ、お手玉遊びでは、昔歌った数え歌など学生さんも顔を見合わせながら感心されておりました。午後2時にデイスービスに降りられ3時のおやつには皆さんと一緒にお茶を頂き、利用者さんの昔の話を聞き和やかな雰囲気の中無事終わることができました。

グループホーム旭町

長谷川

『喀痰吸引の研修を受けました。』

グループホームの入居者様が、胃ろうを造設したことに伴い、介護職員のかたの喀痰吸引研修に参加して参りました。

簡単に説明しますと、病気や加齢による衰えにより嚥下（飲み込み）が困難になり、腹部に穴を開け直接胃に栄養を送り込むものを胃ろうといいます。逆に言うと、胃ろうを造設するほど嚥下が困難ならば、痰などの飲み込みも困難であるとい

うことで、胃ろうの方に對しては、専門の職員または家族が吸引器で痰の吸引を行うのが一般的です。

今回の研修は、介護職員がある特定の利用者に對して、痰の吸引と胃ろうからの栄養の注入を行うための研修でした。教室での講習を2日間受講し、吸引が必要な利用者（今回はホーム入居のTさん）に對しての実地研修を1回行い、研修担当の看護師が合格を出せば実際にを行う事ができるようになるものでした。（ちなみに介護職員が“不特定の”利用者に吸引を行えるようになるには90回以上の実地研修が必要とのことでした。）

実際に研修を受けてまじず感じたのは「本来医療行為である対応を介護職が行う責任」です。吸引のチューブを利用者様の口や鼻に入れ吸引行為を行う事は、見た目にも「病院で看護師が行う仕事」と映りますし、実際研修でも「異常が起きた場合にはすぐ吸引を中止し、そのままの状態で医

師・看護師に連絡しない」と教わるほど、リスクもある行為です。利用者様の状態の把握はもちろん、機器の清潔保持など、通常の対応以上に繊細に気を配って行わなければなりません。

「介護職は研修を受けなければいけないが、家族であれば受けなくてよい」「栄養の注入は良いが、薬の注入はいけない」など、制度的に疑問を感じるところもありますが、まずは法令を遵守し、ご家族にもご協力いただきながら介護職・看護職等が連携し、入居者様がホームでの生活を継続できるように、善処して参ります。

古谷

高齢者のドライヤーを実習

